

# 三心を磨く

学校だより No. 10

令和5年11月17日(金)発行

須坂市立東中学校

文責: (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## ◇◇◇◇◇ 人権教育月間 決めつけている自分 (全校集会・教頭講話より) ◇◇◇◇◇

生徒会の月目標に「人権学習」について触れられていますが、11月は「後期人権教育月間」です。前期の人権教育月間では、今年もJRC交流委員会を先頭に、東中学校生徒会人権宣言が確認されました。「My人権宣言」を考えたり、クラスでできる取組を相談したりしてきましたが、その後、宣言に沿った行動がとれているのでしょうか？毎日じゃなくても、ある場面で思い出したり、意識したりすることができたのでしょうか？少しの気持ちのすれ違いで、友だちや家族に背中を向けたりしていませんか。人権教育月間ですから、自分の行動を振り返ってみることができる、そんな機会、月間にできると思います。昇降口にも、東中生徒会人権宣言の木が掲示され、まとめの時期には、皆さんの学習の成果として、この木にたくさん花を咲かせてくれるものだと思います。

昨年この時期に話をさせていただき、私自身の人権にかかわる意識について、皆さんに聞いてもらいました。そんな、昨年の話を振り返りながら、同じような内容になってしまうのですが、私自身の差別や偏見に対する意識、私の心の中にも、やっぱり差別や偏見の眼(芽)、それにつながる気持ちがあるんじゃないかなという話をしたいと思います。

昨年の講話では、現在NBA、アメリカのプロバスケットボールリーグ、ロサンゼルス・レイカーズに所属、活躍している「八村 塁」選手が、幼いころから差別や誹謗中傷を受けてきたという話から、以前、私自身が、日本のスポーツ界で活躍する外国人選手を見て、ある気持ちを抱いたことを時々思い出す、ということについて話をしました。それは、前回の校長先生のお話にも出てきた、冬の風物詩とも言われる「箱根駅伝」です。私もテレビで毎年見っていますが、30年ほど前から、外国人の留学生ランナーが、この箱根駅伝に出場するようになってきました。こちらは「ジョセフ・オツオリ」という山梨学院大学、ケニアからの留学生ランナーです。引退後は指導者として活躍していたのですが、交通事故で亡くなっています。各大学のエースが走ると言われる「花の2区」で、次々と抜き去っていく異次元の走りが話題となり、その後も留学生ランナーを迎えて活躍する山梨学院大学は、箱根駅伝で総合優勝を果たす名門校となっていったのですが、当時の私は「何だ、日本人だけじゃないじゃん」と思ったことがありました。八村選手のように親が日本人ではないとか、将来の活躍や経済的にも豊かな生活ができるようになることを夢見て頑張っている、国籍を変えても代表選手として活躍したいと努力しているスポーツ選手を見ると、30年以上前に、「何だ、日本人だけじゃないじゃん」、こんな気持ちを抱いたことがあることを時々思い出して、普段、意識はしていないけれど、私自身にも「差別したり外国人を排除したりする目(芽)や気持ちが、心のどこかにあるんじゃないかな」と、複雑な気持ち、少し不安な気持ちになることがあるという話をしました。

こういった面から考えると、ルールに従って様々な人種、違う国籍の選手がその国の代表として活躍することができ、試合終了の瞬間には「ノーサイド」、全てを水に流して、敵も味方も関係なく互いを尊重し合うことで知られている、「多様性を認め合う、開かれたスポーツ種目」のひとつとして「ラグビー」を紹介しました。2, 3年生の皆さんは、なんとなく思い出した部分があったでしょうか。

話は変わります。スポーツではないのですが、先日テレビを見ていると、あるコマーシャルが流れてい



